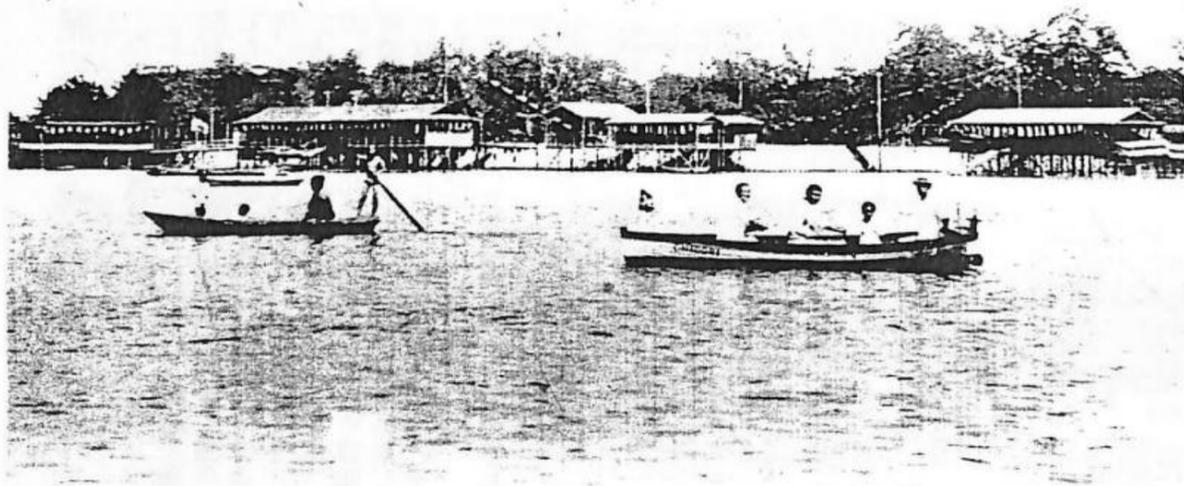


やわた名所百選

八幡史学館名所100選チーム会報*パブリシティニュース

第1号=平成22年5月



やわたむかし写真館=昭和はじめの八幡海岸

びなど海の町として賑わった。海面をレジャーボートが走り、手こぎ櫓のり取り舟がゆく、後方運動公園の岸壁の「海の家」は八幡の夏の風物詩であった。
写真の地はいま工業地帯で面影はない。かつての海岸岸壁がわずかに当時を忍ばせている。



(八幡海岸跡)

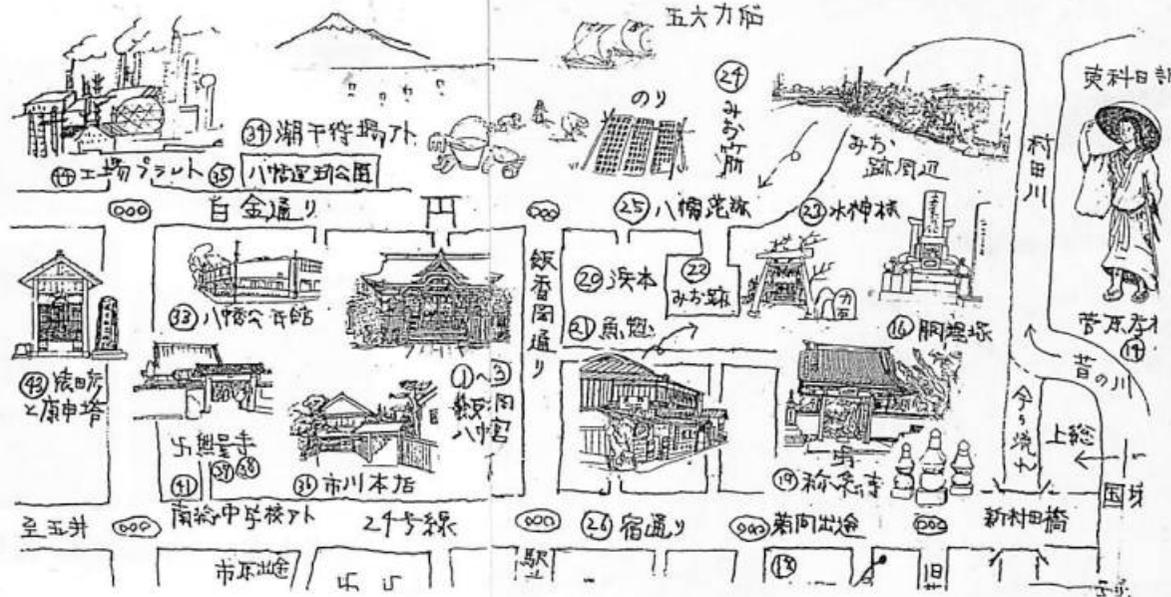
満潮の海から八幡海岸と飯香岡八幡宮の森を遠望
|| 昭和はじめころ
埋め立て造成前の八幡海岸は波静か、干潮時は海面4kmほどが砂浜で、満潮時は八幡運動公園の岸壁まで波が押し寄せた。
八幡海岸は大正、昭和戦前、戦後期を通じ、潮干狩りや海水浴、簾立て遊

写真に歴史あり —— 「やわたむかし写真館」を八幡公民館1階ロビーで展示しています

やわた名所百選

① 八幡宿地区 ガイドマップインYAWATAJUKU

それぞれの地域には、少なからずその地域の歩みがあります。その歩みが有形無形を問わず、急ぐように変化しています。市原市八幡地区においても同様です。漁業権を放棄したのが昭和32年の秋のことですから、もう50年が経ちました。それ以来急速に町が変わりはじめました。農業も漁業も工場の操業とともに終わりを告げました。当然生活も変わりました。昔からの蔵や家のいくつかは現存していますが、家のほとんどが立て替えられました。庚申塔などは顧みられなくなりました。それらの現状を踏まえ、かつての八幡および周辺地域の歩みをたどるべく多くの中から百か所を選んでみました。〈ガイドブック〉と言ってもよいでしょう。箇所箇所の説明も短いながら付け、何枚かの写真も添えまきました。参考になると思います。JR八幡宿駅から歩いてまず飯香岡八幡宮でしょう。境内には見るべきものが沢山あります。百選を1日で巡ることは無理ですが、この百選の案内を手に持ち、天気の良い日を選んで数回に分け、ゆっくりと歩かれたら



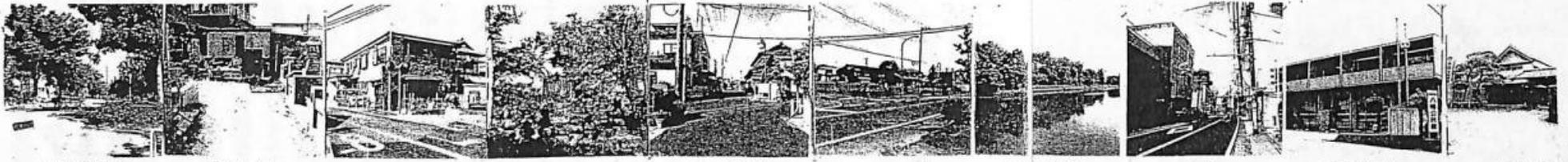
歴史の町・市原市八幡地区（旧市原町）の「名所」を選ぼう
「やわた名所百選」は八幡公民館のホームグラウンドである八幡地区の名所を選定し、その歴史文化を一般の人たちに広げようというものです。「ガイドマップ」や「散策コース」を足掛かりに、「案内表示」などにも結び付けていきたいと考えています。以下その要旨とチームの活動状況を紹介します。

第20番=浜本町（はもと）倉町の町並み
江戸時代から大正ころの八幡河岸地。五大力船持ちの回廊問屋街、町並みはいまに。
第21番=明治の料亭と海の家・魚惣
明治～昭和30年代の料亭で、海の家や船遊びなどマリンスポーツの中心地をなした。明治後期、大正はじめ当時の建物。
第32番=JR線八幡宿駅
明治45年国鉄本更津線八幡宿駅として開業。駅名は当時の大字名による。単線で昭和40年代まで両国始発の蒸気機関車が煙をなびかせた。43年複線化、平成7年モダンな階上駅舎になった。

第35番=江戸はじめ橋本の南町みお跡
江戸はじめ、八幡村を所領した本多正信らが築いた年貢米津出し港、公民館、支庁、保育園が遺跡。五大力船が江戸へ向かった。
第36番=元醤油製造所の市川本店
市川家は旧八幡宮社家で八幡屈指の旧家。江戸後期に醤油製造を始め終戦後まで。門や店、母屋、庭、蔵などが江戸時代の建物

行寺基日泰聖人の隠居寺で入寂地。境内元文6年開基日什証師。明和4年日泰聖碑、文化13年御題目塔など。
第40番 妙長寺と石造物
日蓮、池上本門寺末。正長2年創建とし、宝暦年に火災焼失の記録がある。境内寛文4年日蓮聖人像、貞享元年日蓮大菩薩、文化12年御題目塔など。

大正6年来襲せる大く風過いて損壊
第44番=埋め立て工業地帯文化財的景観
八幡海岸通りや八幡浦の埋め立て地は、の干潟地。昭和30年代の八幡海岸埋め立て後、進出企業の大規模プラントが次々と設けられた。県は君津一帯までの京葉工業地帯を文化財的景観として認定。空や高台からの夜景がとくにすばらしいという。



徳川家康も帰依した八幡さま、五大力船が入りし八幡浦、大名行列が進んだ宿通り
八幡名所100選 ①八幡宿

歴史の町＝八幡地区（旧市原町）の名所を選ぼう

市原市立八幡公民館のホームグラウンドである旧市原町は昭和30年の八幡町、菊間村、31年市原町大部分との合併で誕生した昔の行政名で、昭和38年五井町と合併して市原市になった。
市原の地名起源には「いちい」の木、広い原などの諸説がある。古くは市原郷、市原郡、現在の市名もこの市原に由来し、市原に置かれた「上総国府所在地」とする考えも有力だ。
菊間は古代「菊麻国造（くくまのくに

「放生の池」周辺を清掃
飯香岡八幡宮社の境内、放生池周辺の清掃活動を毎月第3火曜日朝9時から実施している。放生の池は「名所百選」要地の1つで、戦前や戦後期は八幡の人たちの憩い地であった。周辺を整備し、池回りの散策コースや池の鯉や亀たちと親しむ庭園にできたらとの思いを込めています。一緒ではなく、自由な時間に勝手に、という方も大歓迎です。みなさんの参加をお待ちしています。

「やわたむかし写真館」を常設展示
100選チームのこれまでの活動
① やわたむかし写真館
八幡公民館ゆかりの山口画伯展（八幡公民館1階ロビー常設展示中）
② 八幡公民館の60年を見つづけた私たち
の郷土やわた展（平成20年「駅ギヤラ」）
③ 八幡公民館創立60周年記念展
④ 山口達画伯作品展（平成20年「稱念寺」）
「やわたむかし写真館」は、大正から昭和戦後期にいたる100点余りの昔写真を紹介したもので、当初半年間の予定が反響が大きく現在も常設展示を続けています。写真に歴史あり、隠れた人気スポットに足を止める人影が絶えない。この間東京新聞、千葉日報、広報いちいはらや市原ケーブルテレビなどで紹介された。

のみやつこ」の本拠で「菊間古墳群」が現存し、明治維新のころ沼津から水野5万石が転封して菊間藩を称した。
また八幡も飯香岡八幡宮に由来し、江戸時代、上総の玄関口、水陸交通の要衝として栄えた。それぞれに時代こそ違え、上総や市原の中心地としての豊かな歴史文化を継承しているといえる。
「八幡名所百選」はJR八幡宿駅と地域文化の中心地八幡公民館を「扇の要」に町の歴史を100の名所にまとめる。
1昨年、八幡公民館の主催事業「八幡史学館」参加者11名が「100選チーム」を立ち上げ、以後毎月1、2回のペースで現地調査や選考会議を重ねてきた。
今般、別掲のような「ガイドマップ八幡宿地区」の見本版も出来上がった。今は試作だが、微調整をへて最終版に、一目でわかる手作りの名所案内をめざす。八幡宿地区では、これまでの選考会議で決まった飯香岡八幡宮、村田川の渡し場、浜本のみお、倉町の町並み、宿通り、八幡海岸跡など44か所が入っている。完成はまだ先だが、マップ図のほか散策モデルコースやボランティアガイド、案内標識などを検討している。「百選」の選定には地区みなさんのバックアップが欠かせません。ご協力をお願い致します。

④

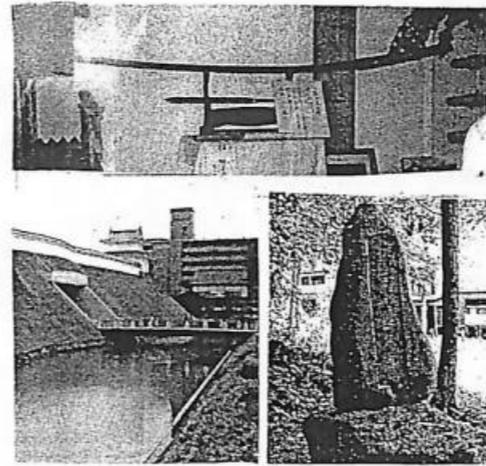
栄光の座から挫折へ

家康謀臣親子——→吊り天井事件廃絶

慶長ころの八幡領主は本多正信、正純父子と永井直勝の3人。いずれも家康や秀忠側近として活躍した。その1人正純波瀾の生涯は？

幽閉の地・横手で

無念の最後を遂げた元八幡領主 本多正純



寄進大太刀と宇都宮城、正純の墓

歴史好きの人なら江戸幕府創設期、徳川家康の側近として活躍した本多正純（まさずみ）をご存じの方も多いだろう。慶長19年（1614）、金地院崇伝と「方広寺鐘銘事件」を画策、「大坂冬の陣」で大坂城惣堀を埋め、「夏の陣」で豊臣家の息の根を止めた。家康の死後、宇都宮15万石に栄進、引き続き秀忠の首座老中として敏腕を振るったがほかの幕閣たちとの折り合いが悪く失脚、巷間これを「宇都宮吊り天井事件」とする。横手に配流、寛永14年73才で没した。

豊臣秀吉の朝鮮侵略で出陣する家康の武運長久を祈願したもの。正純も当然家康に従軍したとみられる。銘文の「唐」は朝鮮の古称、家康は半島に出兵することなく前線基地の肥前名護屋城にあって、泥沼化する「文禄の役」の推移を見守っている。

飯香岡社に大太刀を奉納
いる。全長163cm、銘に「大納言源家康、武運長久、特は今度唐入り、早速凱陣、丹誠の旨趣よつてくだんのごとし、上総国市原郡八幡宮寄進奉るものなり、天正二十年壬辰八月十八日、使者、本多彌八郎正綱」を刻む。

正綱を正純とする根拠は『寛政重修諸家譜』にある。本多家は代々彌八郎を名乗る。正純も天正11年、父佐渡守正信の彌八郎を引き継ぎ、慶長6年従五位下上野介、小山など3万石を得ている。飯香岡八幡宮には江戸はじめのころ、正純が八幡を所領とした文書類がある。慶長18年正純にあてた「境内宗（総）間（検）地書き上げ」、また慶長19年の「蔵屋敷貸し地、運送みお地拝借証文」には当時の八幡領主を本多佐渡守（正信）、本多上野介、永井信濃守（老中格直勝）の3人を明記している。正純が八幡周辺を所領した時期は旗本から小山3万石時代の天正20年ころから元和はじめといえよう。秋田県横手市、市街地から続く丘陵地の中ほどに正純の墓が寂しげに佇んでいる。栄光の座から挫折へ、幽閉の地で非業の最後を遂げた本多正純の無念の思いが忍ばれる。辞世句の一首が伝わる。日だまりを 恋しと思ううめもどき 日陰の赤を見る人もなく（合掌）

⑤

八幡の郷土史を学ぶ

「八幡史学館」日程

ことしの八幡公民館主催事業「八幡史学館」スケジュールは次の通りです。テーマは八幡の郷土史を学ぶ——人気講座で毎年キャンセル待ちが出ます。受け付け当日早めに申し込みください。八幡公民館主催事業「八幡史学館」4回シリーズ（対象Ⅱ一般成人40人）
①6月8日（火）9時30分～11時30分
古文書にみる八幡の歴史発見
②7月27日（火）9時30分～11時30分

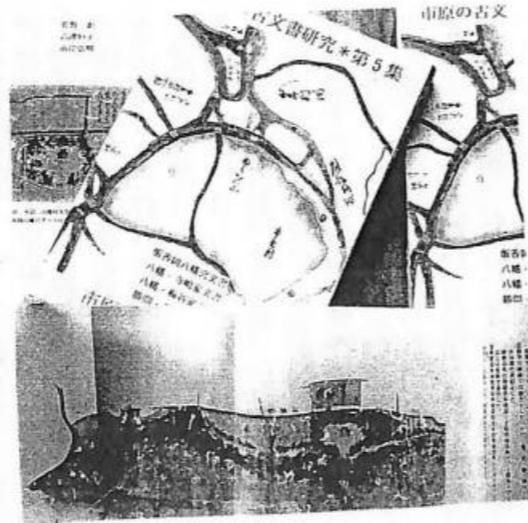


昨年の八幡史学館

やわた名所百選、菊間城②のことなど
③9月14日（火）9時30分～11時30分
八幡宮柳植神事と巡行
八幡と五大力船（ゲスト佐倉東雄）
④11月9日（火）9時30分～16時
公民館Ⅱ現地巡検コースと見どころ
現地巡検Ⅱ市原と柳植神事の道を歩く
申し込みは5月18日八幡公民館窓口または電話41-1984
辰巳公民館主催事業「江戸東京歴史散策」2回シリーズ（対象Ⅱ一般成人40人）
①6月25日（金）9時30分～11時30分
②6月29日（火）バス研修
江戸城と大名庭園、小石川後楽園
申し込みは5月18日辰巳公民館窓口または電話74-8521
（担当講師・山岸弘明Ⅱ講座内容を変更することがあります）

市原の古文書研究第5集

姉妹グループの「市原の古文書研究会」がこのほど、『市原の古文書研究・第5集』を刊行した。B5版302ページ。平成15年に創刊、第5集の今集は、飯香岡八幡宮、八幡寺嶋家（寺島医院）、八幡梅谷家、勝間深山家の保存文書100点余りを収載している。表紙と巻頭のカラーページに八幡宮の



天正18年八幡図、寛文9年周辺図などを紹介、本文は上段に原文、下段に読み下し解説文を対比し、文書ごとに考察を付している。郷土史料としての見どころは明治維新旧幕義軍による混乱を伝える往復書簡、房総知事本陣関連資料などがある。中央図書館、八幡図書館などに寄贈される。

また、「八幡の石造物研究会」も、八幡地区に所在する石造物の悉皆調査の記録集『八幡の石造物研究』の編纂作業を進めている。飯香岡八幡宮、無量寺、満徳寺など八幡と五所に点在するおよそ1000点の石造物を網羅する。ともに八幡の歴史にとって貴重な研究資料といえる。

八幡から海が無くなって久しい。工業都市に生まれ変わったかつての「海の町」にいまはもう潮の香りすらたどることがない。

むかし海があったころの八幡、五所はどんな町だったのだろうか、

「100選チーム」会長で町の歴史に詳しい小出惣治さんに戦時下このころの思い出や暮らし、戦後の町起こしや海岸埋め立てなどを聞いた。

⑥

♡きょうは小出さんが若かったころの八幡や五所のお話しを伺いたいと思います。お生まれは？

昭和8年五所生まれの76才です。気持ちはいつも若いつもりなんです。近ごろはどうもね。もうそんな年なのかと思うとちょっぴり寂しいね。(笑い)

♡8年という昭和恐慌のころ？

前年に「5・15事件」があって9年には「日華事変」が始まる。日本が徐々に戦争に引き込まれていく。そんな時代でした。

のりとアサリが唯一の現金収入だった。

♡子どものころの八幡や五所の様子はどんなでしたか

町の大半は半農半漁、うちもそうだった。みんな小作でね、たんぼは借り物で半分は年貢と税金で取られてしまう。亡くなった父はよく「いくら働いても少しも暮らしては良くならない」ってこぼしてた。のり採りとアサリ取りが唯一の現金収入、生活は海が中心、潮に合わせて海に出て合間に農業をやる。家はトタン屋根で8畳と6畳、それに台所とトイレ。土間。いまも17まで育った家が旧道を少し入った所に昔のまま残っているんだ。

八幡の歴史文化をみんなに親しんでもらいたい

五所・小出惣治さんにインタビュー



目家で盆栽作りを楽しむ小出さん

インタビューした人*鷺津寛子

ど、前を通るたびに子どものころを思い出すね。

竹ヤリで米軍をやっつけるんだ

♡小学校は八幡です

戦時下、八幡尋常小学校と高等科といった。いまの八幡宿駅前にあった。毎朝上級生が引率して10人くらいずつまとまって学校へ行く。教科書は「サイタサイタ、サクラガサイタ」、音楽も国語も「ヨカレン」とか「爆弾三勇士」、外地で戦ってる兵隊さんの話ばかりで剣道や竹ヤリ訓練もあった。「エイ、ヤー」ってやるんだけど、米軍が攻めてきたらやっつけるんだ、みんな本気で考えてたんだから恐ろしい時代だったね。

♡戦時中の子どもたちの遊びは？

どの家も貧しいからまず親の手伝い。朝「繩ない」や「のりす」作りをやってから学校へ行く。帰ってもじっさん、ばっさんのモミの片付けが待っていた。

♡遊ぶヒマがない？

手伝いのない日もある。こんな時は仲間と外で遊んだね。夏は海。いまは埋め立てられてしまったけど当時は八幡様のすぐ前まで海水浴場、潮が引いている時はポートピアの「シヨバ(製塩場)」の水門の池がプール代わり。水門から飛び込んだことももう遠い思い出だね。帰りは北川の所にあった「フーカシ」の工場へ

行く。

♡なんですか？

剣き身のあさをふかす工場があった。みんな「フーカシ、フーカシ」って言ってた。こんこんとわき出る井戸があって風呂みためにドボンと漬かって帰る。

♡夏以外は八幡様？

学校帰りは八幡様で、帰ってからは近くの神明様だね。木登りやチャンバラ、メロンコ、ベイゴマが多かったね。遊び道具はみんな手作り、竹を切ってツリざおを作ったり、木刀を削り、パチンコや水鉄砲なんかも自分たちで作った。

♡戦時下の思い出あったら？

出征する兵隊があると先生が生徒をホームの下に連れていく。なにしろ学校のまんな前に駅があって校庭みたいだった。「ばんざい、ばんざい」と叫んで小旗を

振った。五所からも多くの人が駆け出されたけどそれきりって人もあったね。家内の兄はビルマで戦病死、マラリアだったんだろ。位牌になって帰ってきた。

♡戦争がいよいよ激しくなる

はじめはB29、その内に九十九里海岸近くまでアメリカの大艦隊が来て艦載機のP51が超低空を飛んでくるようになった。ヤックの向かい側に探照灯陣地が作られて高射砲が設置された。みんな期待したけど最後まで1発も打たなかったね。

♡八幡に爆撃はなかったのですか？

昭和20年3月10日の東京大空襲は空が真っ赤になった。見ているだけでもそりゃ怖かったね。千葉も空襲で焼けたけどここは幸いにも大きな被害はなかった。

南町で舟の手入れをしていた人が掃射されて亡くなった。P51は動く物を見えろと急降下してくる。パイロットが見えるくらいまで降りてきてパツパツと機関

銃を打つ。弾が砂煙りを上げて追っ掛けるんだから浜にいたらたままないよ。

♡学校は大丈夫でしたか

授業中にも「空襲警報」のサイレンが鳴る。みんな一斉に校庭に飛び出て防空壕に飛び込んで伏せる。もう生きた心地はしない。終戦の年は授業にもなにもなかったね。

♡終戦の詔勅は？

昭和20年の8月は高等科の1年で12だった。正午にラジオで重大発表があるというので家中正座して聞いた。最初意味が判らなかつたけど、アナウンサーの説明で終戦だとわかった。やれやれこれで戦争が終わったって内心ホッとしたね。

兵舎を解体して中学校を建てた

♡戦後、八幡の民主化運動が始まる訳です

先頭にたったのが民選初代八幡町長の菅野儀作さんだった。戦後の学制改革で我われ高等科の1年生が旧制2年に進むか新制の3年生になるか選択することになった。

♡新制中学が誕生した

八幡中学校はできたが校舎がない。取りあえず1年生は小学校の新校舎、2年生は警察署道場と廃校になっていた南総中学校、3年生は商工会の所にあった町役場と青年学校に分散した。なんとか新校

舎を建てようということになって、菅野さんが習志野の旧兵舎を解体してトラックで運んできた。当時八幡様の境内だった八幡幼稚園から公民館周辺の松林を切り開いて工事が始まった。

♡ポランテアと聞いていますが町長が先頭に立って町の人たちがみんな手伝った。学校は始まったといっても授業はない。毎日古くきを延ばしたり工事の雑用を手伝って、卒業式は工事中の新校舎でやった。まだ残材があるというので公民館も建てることになった。当時の人たちはみんな「八幡の町を作ろう」と張り切っていたんだ。

♡昭和32年に漁業権を放棄して八幡海岸の埋め立てを認めるわけですが、反対

はなかったのですか
先祖からの海を無くしてはいけない、最初はみんな反対だったね。それが賛成に変わったのは菅野さんの「ヌシらは長男だから海の仕事でそこそこ食べていけるかもしれないが、弟やこどもたちをどうするのだ」の一言だったね。

歴史は進化しながら引き継がれる
♡八幡に海はなくなったが：
町は豊かになった。その一方で海や文化など失ったものも大きかった。その後八幡に引越してきた人や若い人たちに当時の話をするとみんな驚くね。八幡に海がなくなってもう50年、すっかり昔話になってしまった。

♡いまなぜ「名所百選」なのですか？
八幡は昔、陸と海の要衝として発展した歴史ある町だ。町の歴史をもっとみんなに親しんでもらいたいというのが趣旨。かつて遠浅で波静か、運動公園の岸壁までが海だった。先祖たちはこの海の幸を守り、のりや貝を採って生活していた。潮干狩りや海水浴場として賑わった時代もあった。町の歴史は進化しながら脈々と引き継がれているんです。

♡八幡は歴史の町でもある？
そうです。こうした八幡の歴史文化を大切に守って行きたいと思っています。
♡きょうはどうもありがとうございます。た。

八幡はかつて俳句の盛んな所であった。戦後も少しのあいだは詠む人も多かったが、今ではあまり聞かない。飯香岡八幡宮の社務所の前に献句がされている。姉崎で勉強をしている会の人たちの作品である。余分な話だが八幡にとってはいささか寂しい。

飯香岡八幡宮の境内を常日頃散策されている方は、すでに承知されていると思うが幾つかの句碑がある。

お神楽の
拍子に昇る初日かな 一徳

安政2年正月の建立。一徳の句は無量寺の奥つ城（おくつき）にも「のどかさや不二と筑波を庭にみて」があり、他にも刻まれている。一徳は八幡宮の社家を努めていた南町の市川本店の先祖にあたる名月や

朝鳴き鳥も起きてゐる 知雪
明治40年8月の建立。知雪は何人かの建立者からして、旧市東村の人と思える。代表者は川上秀真（規矩）。

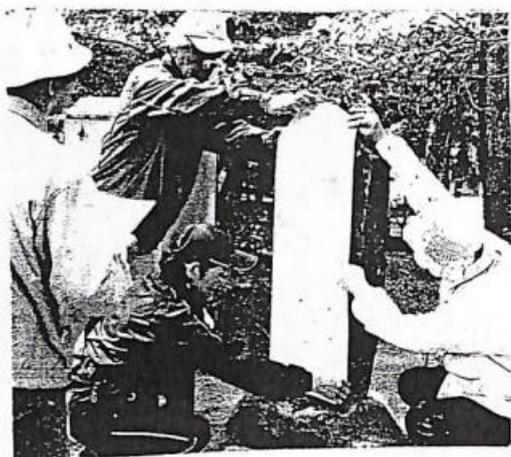
見渡せば
花たたずむはさくらかな 万葉

建立の年は刻まれていない。実際は「見王多せハ花イハさく良可那」である。筆は陸軍騎兵大佐従五位勲三等功五級、山本米太郎。鰯（せん）は地元八幡の安藤硯年。飯香岡八幡宮の碑の大凡（おおおよそ）は、安藤硯年の鰯に拠（よ）るものだが、市原市内にも数多く見ることが出来る。

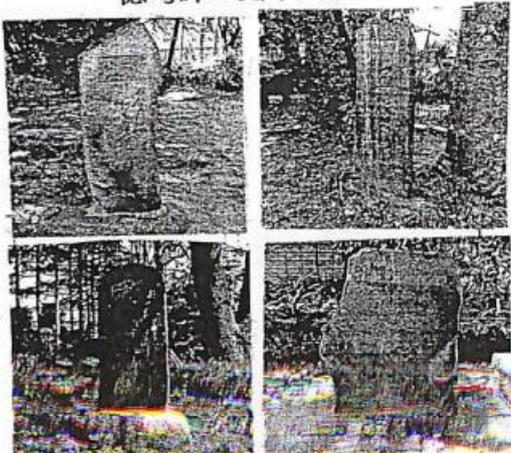
息災で
春の美空やはつ鶉 天名地鎮庵
天名地鎮庵は、八幡が生んだ教育者川上規矩（南洞）の号である。この句碑と並

八幡と俳句文化

佐倉東雄



一徳句碑の拓本風景



飯香岡八幡宮境内にある
上段=知雪句碑、万葉句碑
下段=天名地鎮庵句碑、林文暁伝碑

んで南洞の銅像も建立されている。
私は俳句をよく知らないのですが、いずれの句も注釈することができない。皆さんは皆さんで大意を読み取り、書体の素晴らしさなども鑑賞されたらよろしいかと思う。歌碑を含めて。

南洞先生の銅像の前の道を挟んで「林文暁（ぶんぎょう）伝碑」がある。安政2年、子弟達が建立したものであるが、表に先生の事蹟、裏には子弟の俳句や和歌が数多く刻まれている。

私の祖父（父方）も俳句をやっており、飯香岡八幡宮の宝物殿にその作品のあることを最近知った。祖父は今片倉歯科医院になっている場所に屋号を丸柏屋といい、川上姓の本家になる家があった。その家で句会が開かれよく行っていた。号を雪窓と言った。

私は、川上家があった時、独りで住んでいたお婆さんを郷土史の一環として訪ねたことがあった。その時、私でこの家も終わりです、よろしかったら差し上げましょう、と言って榎本其角の短冊を出してこられた。私はありがたく頂戴した。真贋のほどは定かでない。

丸柏家は八幡でも古い。先祖の一人は松尾芭蕉の時代に深川に少し住んだという。勿論（もちろん）、芭蕉から俳句を学ぶためであったらう。

菊間台地の一面に「菊間城（藩庁）跡」がある。明治維新直後、一寒村であったこの地で突然水野藩5万石の城作りが始まり旧領沼津から移り住んだ藩士家族およそ3千人を中心とした惣構え城下が誕生、しかしはかなく消える運命にあった。

やわた名所百選 菊間藩庁舎跡

菊間藩水野忠敬5万石

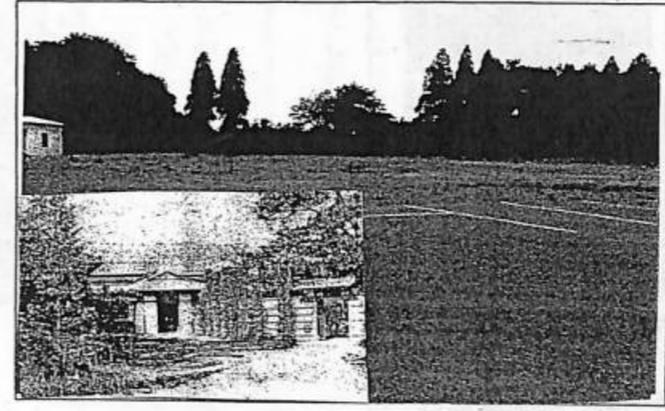


水野忠敬と忠亮父子

忽然と誕生し、
幻のように消えた
明治維新の城

水野家は江戸時代、徳川家康の生母・お大の実家で将軍家の外戚として重きをなした。慶応4年（1868）鳥羽伏見の戦いに敗れた15代将軍慶喜が退陣し、徳川亀之助（家達）に駿府70万石が与えられた。この結果、沼津5万石を所領し

た水野忠敬（ただのり）の本領駿河国内2万3千石が上地され市原へ転封が命じられたのは年号も明治と改まったこの年7月13日のことであった。
水野家は13代将軍家定の側用人で井伊直弼の側近として活躍した13代忠寛（た



菊間藩庁舎跡と水野邸古写真

だひろ）が桜田門外の変後失脚したので、養子の忠誠（ただのぶ）が継ぐ。しかし、忠誠も慶応2年（1866）14代将軍家茂の老中として従った第2次長州征伐陣中で急死し、再び水野忠明の3男忠敬を養子に迎えることになった。

慶応4年明治維新の戦いが始まると沼津藩は尾張藩の指令下に入って恭順し、討幕軍の宿駅取り締まり、人馬継ぎ立て、佐幕急進派の鎮圧などにあたった。市原転封時、養祖父忠寛かぞえ62才、忠敬18歳であった。

7月27日、忠寛と忠敬は沼津城引き渡しのためいったん伊豆の戸田村に移り、8月市原へ拝領地受け取り方兼境界測量方、総普請方、屋敷割り測量方などを派遣、房総知事柴山文平から市原の所領を引き継いだ。新城縄張り総指揮官として忠寛が船で八幡港に到着したのは9月27日早朝であった。忠寛は八幡称念寺などを宿陣として城地選定を始める。八幡も候補地の1つであったが菊間台に決定、新政府の経費援助も決まる。村田川から城地に通じる巨大空堀（引き上げ道）や新坂の開道、藩庁舎、忠寛御殿（下屋敷）工事が始まり、築城が本格化するかにみえた。

しかし、時世は大きく変わりつつあった。明治2年2月、江戸にあって推移を見守っていた忠敬は諸藩主とともに「版籍奉還」を願い出、6月菊間藩知事に任命された。しかし若い忠敬の目には新しい時代が見えたのだろう。いったんこれを辞退、慰留されたりもした。
7月26日供揃いを整えて初めての国入り。しばらく若宮神社根本神官宅に居住

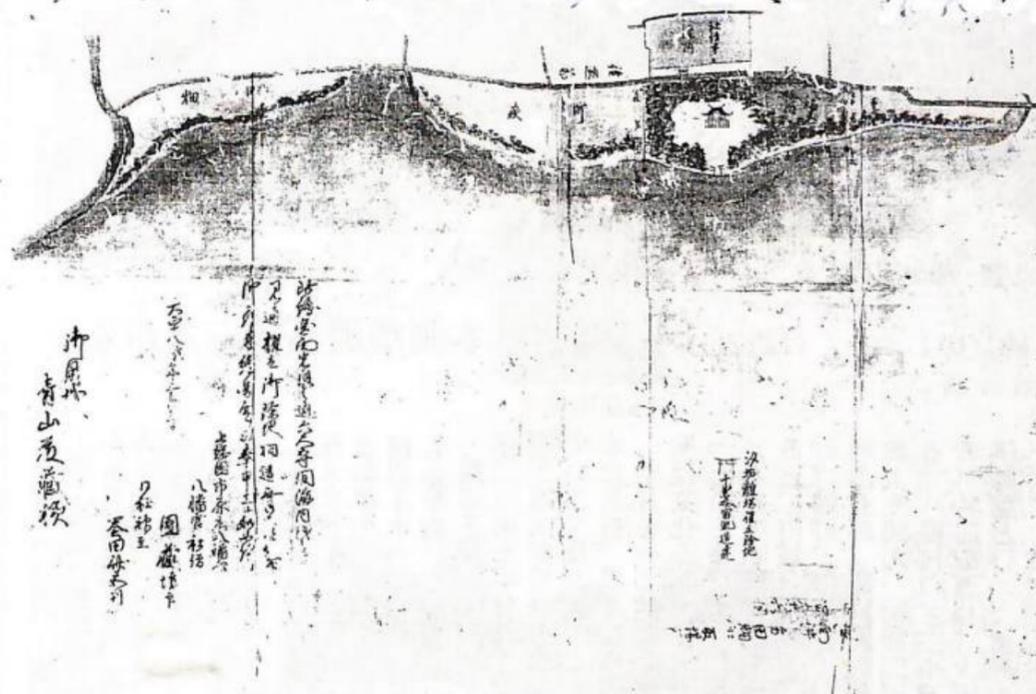


土塁一部が現存する 石橋らんかんの残欠 浜本側参道石橋跡

碑（いしづみ）は語る = 八幡宮浜本側参道石橋らんかん

八幡宮の境外、山祇神社（石尊さま）と商工会前に飯香岡八幡宮の参道入り口を示す石柱が立ち、浜本側に石橋跡と暗渠になった小川が巡っている。八幡宮の古絵図や「由緒本記」はこれを「境内構えの堀」とする。構え堀は城郭用語で、堀、土塁、虎口の3点セットをいう。
天正20年（1692）徳川家康の許可をえた神社が掘割り2間、土上げ場2間と参道を築いた。掘割りは旧道側から八幡第一ホテルで西側に折れ、白金通りから先が海になった。
周辺を詳しく観察すると土塁一部が残存、石橋も半分ほどが残り、社務所前に欄干残欠が恰好のベンチとして利用されている。長さ250cmの一本は完品で一本は半折、残りは確認できない。
年月をへて銘文の磨耗が激しいが、建造は文化5年（1808）で、両面にびっしりと寄付者、世話人名を刻んでいる。「八幡の石造物研究会」の拓本調査によると、町域は浜本町、観音町、仲町、片町、南町、南新田で、松田喜右衛門、寺嶋庄五郎、蔵持庄五郎、川上平十郎などおよそ50人、総額20両以上にも上っている。八幡村の名主や商家など当時の有力者が名前を連ね、大坂屋、港屋、柏屋、伊勢屋といった屋号の中に現在に引き継がれているお宅もある。碑（いしづみ）は町の歴史をいまに伝えている。

した後、明治4年2月本丸一面に新築された忠敬邸に移った。それは石垣、水濠を巡らせ櫓を上げ、巨大御殿を連ねた旧領沼津城とは比較できない質素な陣屋造りであった。菊間城（藩庁）の主郭部は字雲の境と呼ばれた台地東側で、空堀と土塁を巡らせ門を築き、土台を回したが明治4年7月「明治維新」となった。
築城工事は中止され藩主家族は江戸を改称した東京に招集された。残された旧藩士の中には能満地区で大規模な開墾事業を始めたグループもあったが成功することはなかった。職を失った旧藩士たちは櫛の目が欠けるように、一人また一人と離散していった。
下屋敷や公廨（くがい役所）は明治6年の廃城令で廃棄されたが、工事で集められた木材や瓦はのち千葉県庁に転用された。医局は菊間村役場とされ、藩校「明親館」は初代菊間小学校に、忠敬邸は水野家の別荘として戦後まで利用され、忠敬の子爵家を継いだ忠亮が学友たちとテニスを楽しむ姿がみられたという。
菊間廃城後およそ150年、いま菊間城跡に立つと一面が畑地で所々に民家が建つ。周囲を探しても朽ち果てた「菊間藩庁杭」のほか「史跡看板」1枚見当たるところはない。忽然と誕生して幻のように消えた菊間城、歴史のはかなさを感じるのは筆者一人であろうか。（山岸）



飯香岡八幡宮文書137

現存する八幡最古の絵図。天正18年豊臣秀吉の小田原攻略と徳川家康江戸打ち入りにかかわる八幡宮文書の1枚。家康を先鋒とする秀吉軍は北条氏政、氏直が籠城する小田原城を完全包囲し、一方で木村重高、浅野長政らが武蔵、下総に進攻した。市原の諸城は北条方として小田原に集結したので戦闘体制がとれず、無抵抗のまま降伏している。絵図裏書きによれば3月小田原の家康陣中にこの絵図面を差し出したとする。南北に伸びる往還筋に沿って町並みが連なる。八幡宮正面鳥居までが海、町屋が切れる雁田川や新田川ではバス通り旧道まで潮が押し寄せていたこともわかる。発展途上の中世の町並みがみてとれる貴重な絵図といえる。

あ・と・が・き

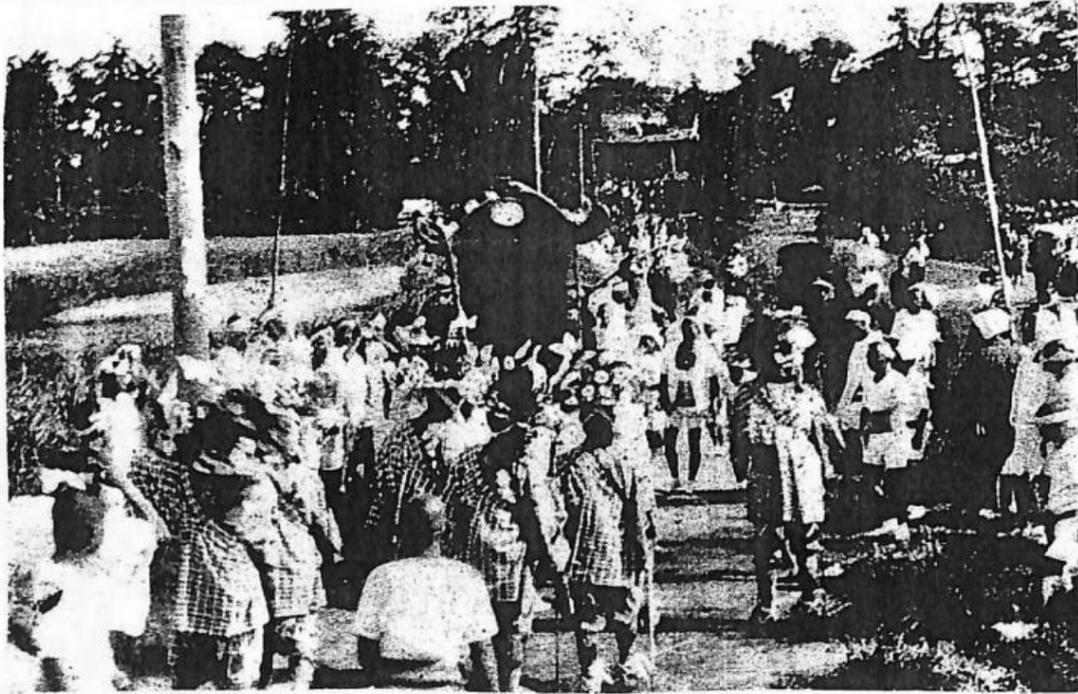
八幡に「名所」を作ろう——八幡公民館の主催事業「八幡史学館」受講者の有志11人で始めた活動が3年目に入りました。まだまだ道のりは遠いが、一人でも多くの方々に応援していただきたい、そんな願いを込めてPRを兼ねた「会報」第1号を編集しました。八幡は歴史の町です。私たちは先人たちが残した豊かな歴史文化を大切に育んで行きたいと考えています。ご支援をお願いいたします。

100選チームメンバー 青木くに、朝倉久江、石井 勇、北島勝代、小出惣治、佐倉東雄、高沢 毅、多村勝彦、山岸弘明、山越恒吉、鷺津寛子(あいうえお順)

やわた名所百選

八幡史学館名所100選チーム * パブリシティニュース

第2号=平成23年4月



やわたむかし写真館=昭和はじめころの飯香岡八幡宮秋期大祭

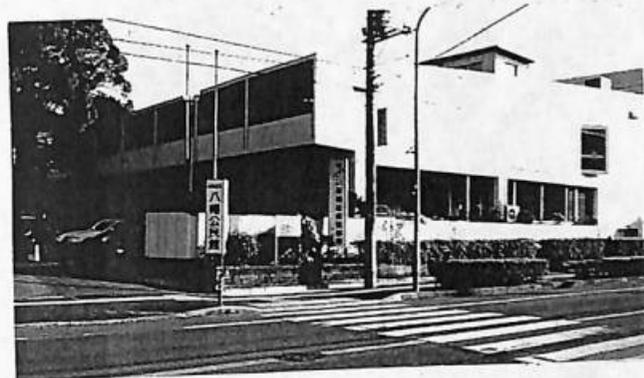
の前に供える「榎柳神事」で始まる。「宮出し」は「海中渡御」に移り、みこしは1kmほど先の2の鳥居を回る。写真はその後、カルサンが前後に歴史文化を伝える貴重な一枚といえる。
(提供・市川本店)



現在の様子

写真はいまの青少年会館の地。正面に八幡様の森と社殿、参道1の鳥居がみえる。手前、カメラマンの後ろは岸壁で満潮時は海水が広がった。旧暦8月15日の中秋名月の日に行われた八幡宮の祭りは、市原台地で作られた柳楯を1の宮みこし

写真に歴史あり —— 「やわたむかし写真館」は八幡公民館1階ロビーで展示しています



八幡公民館などが

指定管理者制度に移行

市内8公民館で4月から

4月から八幡公民館を含む市内の8公民館で指定管理者制度が導入され、八幡公民館の管理運営が「八幡公民館運営委員会（会長・安藤岩男氏）」に引き継がれた。

「指定管理者制度」は公民館の持つ社会教育施設としての機能を保ちながら、自主的な学習や地域づくり、生涯学習の拠点向上のため、施設の管理と運営を地域住民を中心に組織された指定管理者に移管するという、いわば「住民参加型」スタイル。国が提唱し、各地で市区民会館、文化体育施設などを中心に移行が進んでいる。

市原市ではすでにコミュニティセンターなどを指定管理者制度に移行済みであり、平成20年に3年後の23年4月市内全公民館への導入を決定していた。昨22年9公民館の先陣を切って南総公民館が指定管理者制度としてスタート、今般残る八幡、五井、姉崎、辰巳、有秋、国分寺市津、加茂の8公民館が新体制に移行された。

八幡公民館の実務を引き継いだ八幡公民館運営委員会は地元町会や公民館のサークル登録団体連協などで構成、一般公募で採用された新スタッフにより4月1日から業務を開始した。

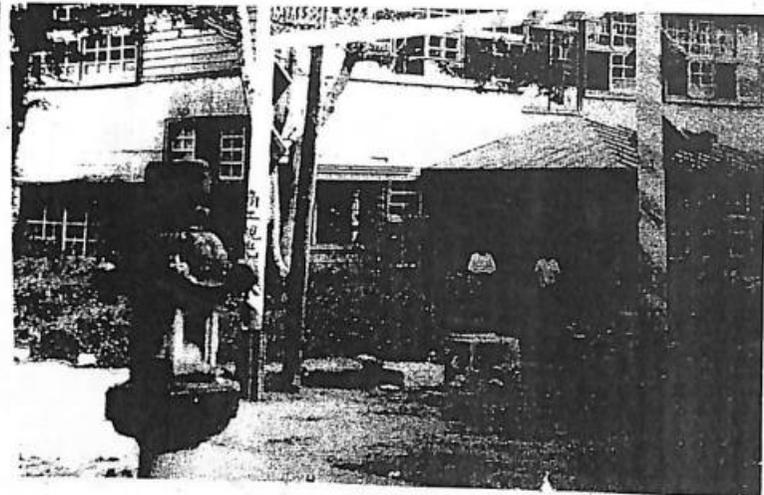
今後、市内の9公民館は地域住民の自主的管理運営のもと、生涯学習社会において、時代の変化やニーズを的確に捉えた主催事業、地域づくりサポートなど、一層の積極的展開が期待される。私たち利用者もよりよい「地域公民館」をめざし、協力しましょう。八幡公民館の新体制移行を機に、創立63周年の足跡を辿った。

八幡公民館63年の歩み

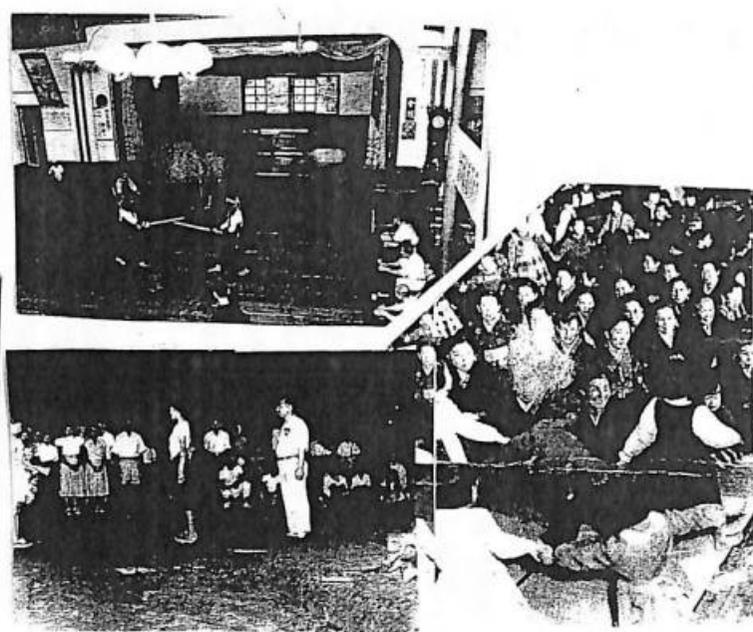
八幡公民館の歴史は終戦直後の昭和23年に遡る。人々は生活が苦しく気持ちもすさみがちだった。町民の生活安定と町起こしを、公民館の提唱者は当時八幡町々長で初代館長となった菅野儀作氏であった。

町では前年昭和22年、戦後の教育改革で誕生した八幡中学校を現在八幡公民館の地に自分たちの手で完成させていた。町には建築ノウハウと町作りにかけた町民たちの情熱があった。幸いにも中学校建設で使った旧習志野騎兵連隊厩舎の残材がある。工事は職工組合と町民がボランティアで、電気設備や綴帳、備品は町の人たちが寄付した。

3か月後の昭和23年6月26日竣工、2階建て木造延べ237坪、当時斬新デザイン洋風木造建築で収容人員は2千



創館当時の八幡公民館 *町の行事や文化体育活動の拠点となった



昭和26.8.15 旗本舞



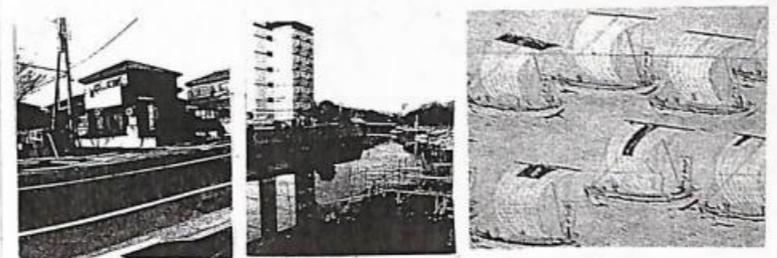
人、専用公民館としては県下初で最大、歌舞伎界の重鎮中村吉右衛門を迎えてこけらおとし、新生「八幡町立八幡公民館」が華々しくスタートを切った。
その後の活動も活発だった。文字どおり町のシンボルとして、戦後の新生活運動、民主化運動の拠点となった。館の運営は総務、教養、社会、産業、集会、保健、体育の7部門で構成され、青年連盟、婦人会、ボイスアウト、文化体育の各種サークルが相次いで誕生した。また、県の公民館を連合会にまとめ、その会長館としてリーダーシップを発揮したりもした。昭和24年11月、八幡公民館のこうした活動が評価され、全国第1回の文部大臣表彰の荣誉に浴した。
昭和30年代の八幡海岸埋め立てと工場誘致は八幡を海の町から地方工業都市へと大きく変貌させた。五井町など近隣町村と合併、市制が布かれ、名前も「市原市立八幡公民館」と改まった。八幡中学校は生徒数の増加と設備老朽化のため反対側に移転、八幡公民館も駅周辺の道路整備計画に沿って親しまれた創設の地を譲って、昭和47年現在地に移転して今日に至っている。平成20年創立60周年を迎え、今般、その管理運営を指定管理者に移管することになった。八幡公民館の歴史はまさにわが国の「生涯学習そのもの歩み」といえる。

「やわた名所百選」は八幡公民館のホームグラウンドである八幡地区(旧市原町)で名所100を選定し、その歴史文化を広げようというものです。

八幡公民館のある旧市原町地区は昭和30年八幡町と菊間村、翌31年市原町の大部分との合併で誕生した昔の行政名で、昭和38年に五井町と合併して市原市となりました。

市原の地名起源は「いちいの木」「広原」など諸説、往昔の市原郷、市原郡

最大の海運基地だった八幡港



浜本みお跡 八幡港跡 五大力船

八幡地区(旧市原町)の名所を選ぼう

- ①むかしの八幡港跡(飯香岡橋北側)
 - ②南町みお跡(八幡幼稚園前)
 - ③浜本町みお跡(ベイシア南側住宅地)
 - ④八幡港みお跡(八幡運河)
 - ⑤倉町の町並み(八幡浜本町地区)
- 江戸時代の八幡は近郷や市原の中奥部から運ばれた「年貢米の津出し港」として発展した。八幡港から米や薪炭などを積み込んだ「五大力船」が江戸に向けて出帆、帰り船で衣料や酒、砂糖などの日用品雑貨を持ち帰った。現在の八幡保育園から看護専門学校一带にあった南町みおは、慶長19年当時の八幡領主・本多正信らが年貢米津出しのため築港したもので浜本町は未詳。江戸中後期と見られる八幡は4kmにおよぶ遠浅な干潟に囲まれ海の幸に恵まれたが、港としては不

市原

八幡名所百選②



みお筋跡 倉町 南町みお跡

市原の中心地として育まれた歴史文化

便で、接岸のため3本のみお筋(運河)を掘り、船溜まりと荷揚げ場を築いた。江戸後期から明治、大正時代、浜本町の街区・倉町に船問屋が軒を連ねた。昔の八幡港は、八幡運河の飯香岡橋北側一帯で、いまも釣り用のレジャーボートが係留、当時の凄風景をわずかに偲ばせている。明治30年代に堅みおを延ばして、白金通りの所に浜本みおを移築、引き続き港町として発達したが、大正以降は自動車の発達で次第に衰退、昭和30年代の海岸埋め立てですべてが消滅した。以来50年が経過、八幡運河やみお跡、船問屋が立ち並んだ倉町の町並みが華やかだった港町の面影を伝えている。

現在の市原市もこの地名に由来し、「上総国府」所在地とする考えが有力です。市原には古代官道が縦断、稲荷台1号墳からは「王賜銘鉄剣」が出土しました。菊間も古代「菊間国造(くくまのくにのみやつこ)」の本拠で、菊間古墳群が現存、明治維新の時、沼津から転封した水野忠敬(ただのり)が5万石城下を築きました。また八幡の地名は飯香岡八幡宮に由来し、江戸時代、上総の玄関口、水陸交通の要衝として市原最大の盛り場

となりました。五大力船が浜本町(はもと)から江戸をめざし、参勤交代の「大名行列」が宿通りを進みました。八幡(旧市原町)は歴史の町です。「市原」発展の中心地として育まれた歴史文化を大切にしたい、百選の選定にはこんなメッセージを込めています。本会では現在、100選の選定作業を行っています。ガイドマップや散策モデルコース、案内表示などに結び付けたら、と考えています。

「やわたむかし写真館」をリニューアルオープン

- 100選チームではこれまで次のような活動を行なってきました。
- ①やわたむかし写真館
 - 八幡公民館ゆかりの山口達画伯展(八幡公民館1階ロビー、継続展示中)
 - 八幡公民館の60年を見つづけた私たちの郷土やわた展(平成20年「駅ギョラ」)
 - 八幡公民館創立60周年記念展
 - 山口達画伯作品展(平成20年「称念寺」)
 - 「八幡称念寺の石造物と文化財」刊行
 - 引き続き現在は
 - ①やわたむかし写真館リニューアルオープン(平成23年3月)



- ① 企画展① 指定管理制度移行記念八幡公民館63周年写真展
 - ② 企画展② 飯香岡八幡宮絵馬写真展
 - ③ 「八幡の石造物」刊行(編集作業中)をすすめています。
- また、図書室には「八幡史学館」の関連資料コーナーを設けています。どうぞご利用ください。

毎月第3火曜日に八幡宮「放生の池」周辺を清掃

当会では毎月第3火曜日の朝9時から飯香岡八幡宮「放生の池」周辺を清掃しています。放生の池は「名所百選」要地の一つで、戦前や戦後期は八幡の人たちのいこいの散策コースでした。きれいな池が復活できたらどんなにかすばらしいことでしょう。みなさんの参加をお待ちしています。

ことしの「八幡史学館」などスケジュール

「八幡史学館」の受け付けは5月18日です。その他関係分日程は次のとおりです。お早めに申し込みください。

★「八幡史学館」4回シリーズ

(一般成人40人)講師・山岸弘明)

①6月7日(火) 9時30分-11時30分

②7月19日(火) 9時30分-11時30分

金杉浜名主文書にみる八幡の歴史

③9月27日(火) 9時30分-11時30分

④11月8日(火) バス研修(千葉)

①8月24日(水) 9時30分-11時30分

②9月30日(金) バス研修(市内外)

①8月29日(月) 9時30分-11時30分

②9月15日(木) バス研修(東京)



海が盛んだった戦前の魚惣とすだて



堀り」の井戸があった。大正3年に敷地いっぱい店を建てて現在の形になるのですが、その時井戸も建物の中に作り込んだので、いまでも2階の廊下に井戸溜りのため仕掛けが残っています。

海に面した景勝の地ですね

昔は八幡港のみおが店のまゝまで入り込んでいた。開店のころは八幡が市原の中心地でね、鶴舞とか市原の内陸の方から米や薪とかが集まった。それを五大力船に積み込んで東京に運ぶのですが、この辺りは船乗りや運送関係の人たちで賑わったそうです。船は大正時代ころから自動車や鉄道の発達でだんだん寂れてくる。そのころはじめた潮干狩りやすだて、船遊びが東京のお客さんに評判となり、会社やお店の接待や従業員の慰安などに

利用されるようになったそうです。

部屋からの景色は？

「そりゃーすばらしかったですね。2階座敷から座りながら海が見えた。部屋ごとに「張出し」といって、簡単なベランダ風の展望台が作ってあって、お客さんは自由に出入りして海を眺めたり、夕涼みが楽しめた。目の前いっぱい海、大きく富士山のすそ野が広がり、左手から五井鼻が浦を作っている。遠く近く船が行き来して、いまの人たちにはとても想像出来ないでしょう。まるで絵のようなかような風景でしたね。

すだても楽しそうですね

「すだては、コチやヒラメ、カレイ、スズキ、セイゴといったところでしょうか。たまに黒ダイなんかもあった。採れた魚は全部お客さんのもの。船の上で料理して宴会、飲んで食べて残りの魚はおみやげになった。人気料理はお造りとてんぷらだった。なにしろ新鮮。お客さんが「おいしい、おいしい」って喜んでくれましたね。

海の家のかきかけは？

「大正6年に大嵐がきて、このあたりも床上1mほど浸水、家の前の道に船が通

ったそうです。この時、八幡さま前の海岸で営業していた「八幡ホテル」が流され、廃業することになった。このころ海が大勢のお客さんをお呼びすることができなくなって考えていた2代目がその権利を譲ってもらって「納涼台」を始めたんです。それが戦後になって「海の家」になりました。

海の家最盛期は20年代でしょうか

「戦前からですね。何回か皇族のお子さんたちも潮干狩りで八幡海岸にいらっしやって、「魚惣」の納涼台も着替えや休憩に利用された。宮様が使った足袋を洗って取ってあったが、いくら探しても出てこない。多分何かに混じって処分しちゃったんでしょうね。(笑い)

戦後は？

「私は昭和24年に結婚して、26年に駅前ですし屋を始めたんですがそのうちに、「店が忙しいからそっちはやめて夫婦で帰ってこい」ということになった。5月ごろからシーズンが始まり夏になると客が1日に1000人を超えることもある。何しろすごく忙しい。氷水とかサイダー、すいか、とうもろこしなんか飛ぶように売れましたね。朝の6時から準備がはじまり、夜も海の家で泊まる。ろくに眠れないなんて日も続いたけど、何しろ若かった、当時は少しも辛いなんて思わなかったね。

目の前に海、富士のすそ野が広がり 遠く近く船が行き来する まるで絵のような風景だった

「魚惣」の100年を清水あき子さんに聞く

インタビューした人=青木くに、朝倉久江



八幡の浜本町(はもと)地区、ほぼ中央あたりに風流な高欄とガラス戸で往時のたたずまいを残す瀟洒な2階建てがある。元料亭だった「魚惣」、明治27年に創業、海側は築117年、陸側も大正3年の増築というからまもなく100年を迎える。かつて八幡が「海の町」だったころの磯料理料亭、八幡中学校グラウンド(現在運動公園)の岸壁から海に張り出すように浜1番の「海の家」を開設、最盛期は1日1000人を超える潮干狩りや海水浴客を迎えた。

昭和2年生まれ元女将・清水あき子さんの父・幸一さんはみんなが喜ぶのが大好きだった。村田英雄や二葉百合子、女剣劇の浅香光代を呼んで興行を張ったりもした。町に海があった時代を知る人たちにまさきき思い出す店を尋ねると「魚惣」と答える人も多い。かつて「海の町」の一時代を築いた「魚惣」の歴史をあき子さんに聞いた。

明治27年に竣工、
117年の年輪を刻んだ「魚惣」

「ずいぶん丈夫な造りですが？」

「西側の半分が初代惣三郎が明治に建てた部分。いま勝手口に使ってる所に長屋門があって庭石伝いに玄関に入ったそうです。千葉側が別棟の調理場で、「上総

思い出と夢いっぱいの家
目の黒いうちはそのままにしたい

海の家では食堂も？

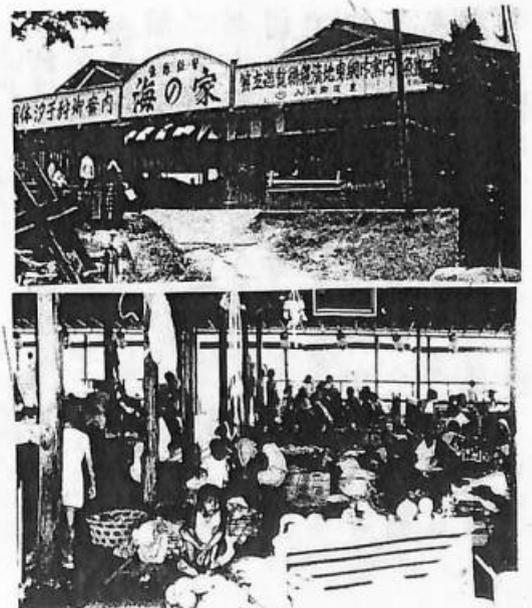
♡バスで東京からくる小学校や中学校の生徒は弁当持参で、一般の人たちは海の家を利用した。メニューは親子丼とかあさりめし、サンガメしが中心で、ラーメンやカレーはやらなかったね。はじめは注文があると魚惣の料理屋の方で作って運んでいたんだけど、大変だということで、そのうちに海の家で炭こんろをおいて調理するようになった。売り上げは天井からぶら下げたカゴがレジ変わり、まだ100円札もない時代だから10円札と1円札、あとはコインばかり、すぐ一杯になった。

昭和32年に漁業権を放棄して海岸の埋め立てが始まるわけですが？

♡話が合った時、そりゃーショックでしたね。八幡から海がなくなるなんていまで考えたこともなかった。年寄りには絶対反対、海は先祖から受け継いだ大切な恵みだって。でも、当時の八幡はのりの養殖に頼って生活している。ところが海に油が流れ込んでだめになるなんてこともあって、若い人たちは将来の生活に不安を持っていったんですね。これも時代の流れかって、わずかばかりの保証金を貰って県の埋め立て計画を認めることになったんですよ。

魚惣1世紀にわたるお店の歴史を閉じることになる

♡いまはむすこが築地で魚惣のノレンを守ってくれています。ここは私が生まれ育った大切な家、手を掛けるのも大変だし、思い出もいっぱいです。回りから「建て替えたなら」って言われるんだけどどうもね。私の目の黒いうちはこのまま



魚惣海の家

許されよ

神木倒すも国のため

八幡と俳句文化②

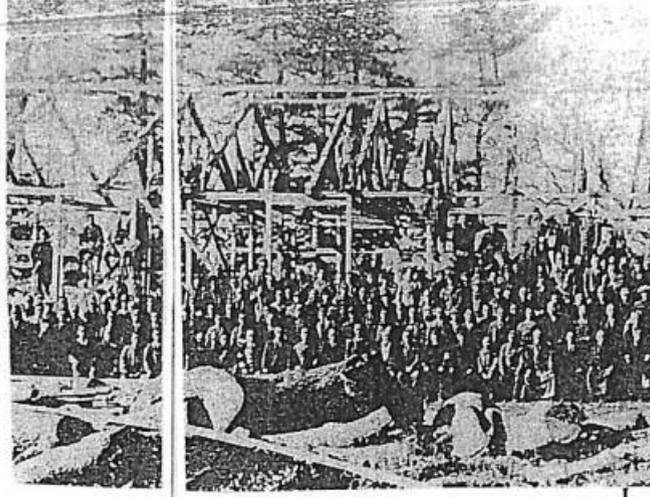
八幡公民館の「神木供養献句」

くため取り壊され、現在地に鉄筋で立て替えられた。

神木供養献句

昭和二十三年一月五日

許されよ神木倒すも国のため 町長 菅野儀作
うつ梁に神の木据えて斧始め 助役 岩田申弥
神の森み国を建つる礎に 町会議員
諸人よゆるせ神木時代かな " 白鳥秋陽
" 永島北峰

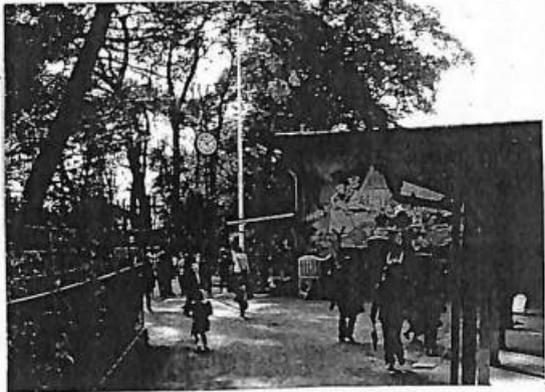


初代八幡中学校の建設

初代八幡中学校

現在は八幡幼稚園

佐倉東雄



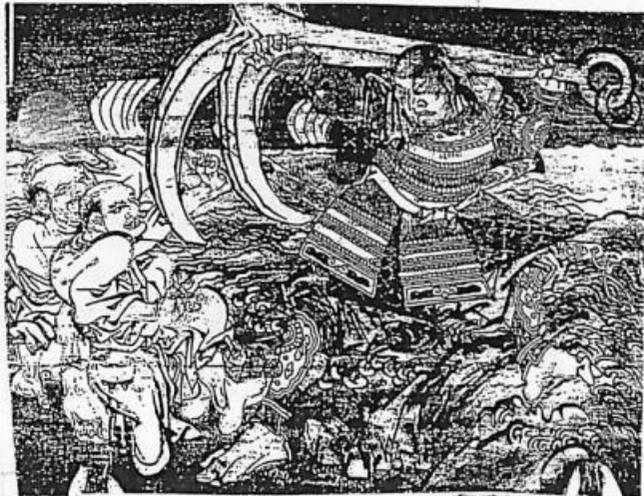
八幡公民館を階段で2階に上がった突き当たりの壁に、低いながら板に筆で書かれた多くの献句がある。取り壊した旧の公民館に掲げられていたのであるが、いきさつは次のようなことである。

現在、八幡幼稚園になっている所は、飯香岡八幡宮の境内で、赤松を中心の豊かな所であった。そこに戦後、新制中学校を建てた。(昭和45年、現在地へ移る)当然、神木を伐採した。菅野儀作新町長の施策である。したがって献句は菅野町長が中心となって記念の吟行会か何かを催したのであろう。なお、旧公民館は飯香岡通りを敷

神木も氏子のために通じらん 八幡 石井倉二
老い松の影を刻めり寒月光 八幡 小倉柳絮
霜白し神木に斧入るる音 八幡 森 肥龍
飯香岡の冬富士遠く照る神木 八幡 白井千里
神木の注連の匂いも新しく 八幡 大木太郎
神木の濡れ夕照りて不二晴るる 八幡 広川善哉
神木を霜くだきつつ子ら運ぶ 八幡 白井喜舟
空高く神木の古命子に伝え 八幡 菅井恵煙
初雪や木霊鎮まる宮静か 八幡 中村静観
もも年の年輪のぞかせ初雪積む 八幡 今井けん
浄材の積み上げられて初明り 八幡 足立丈夫
初詣で浄材の歳子と数え 八幡 辻村 平
神木も打微小にて倒れゆく 八幡 野城恒吉
神木に斧ふり上げて拜むかな 八幡 石川賢識
神木も浄材となり霜に積まれ 八幡 根本 観
神木の供養こころに年迎う 八幡 小安 馨
注連の飴したるまま斧を打つ 八幡 今井皇民
氏神の恵みゆたかに初木霊 八幡 今井梧桐
神木の句心こめて初詣で 八幡 中村梅香
年立てり老幹の肌砥をふせる 八幡 濱田白舟
(お断り!!一部現代文で表記しました)

五井や潤井戸、千葉等の人の句(省略)も交じるが、ともかく八幡にあっては戦後も俳句が盛んであったことがこれで分かる。この時期は、最後に献句をしている濱田白舟が俳句の普及に熱心に努めてくれていた。今回の献句の纏め役は白舟であったであろう。

白舟は八幡役場に勤め八幡南町に住んでいた。俳人浜田石連子の実弟にあたり、五井の生まれである。



源為朝の鬼が島 (3代堤等琳)



五大力船と蒸気船 (部分)

常磐御前親子都落ち

飯香岡八幡宮の大絵馬

八幡公民館1階ロビー
「やわたむかし写真館」で企画展示中

飯香岡八幡宮所蔵大絵馬

- 拜殿内部常設展示
①源為朝鬼が島 (文化4年=堤派3代等琳)
拜殿外壁常設展示
①八幡宮文字絵馬 (大正8年)
宝蔵庫常設展示
①上総国八幡村五大力船 (寛政6年)
②曾我物語、朝比奈草薙引き (享和2年=堤等船)
③牛若丸と弁慶 (文化元年=堤秋泉)
④近江八景、瀬田の唐橋 (文政13年=堤栄川)
⑤わし (天保2年=堤等栄)
⑥常磐御前親子都落ち (安政4年=探秀守雄)
宝蔵庫2階倉庫収蔵
Aグループ=八幡海岸や海を描いたもの
①上総名所八幡神社 (明治19年)
②八幡海岸五大力船と蒸気船 (明治24年)
③〃 (明治中期)
④難風の中を突き進む五大力船 (明治36年)
Bグループ=参詣などを描いたもの
①瀬田の唐橋 (天保2年=堤栄川)
②伊勢神宮と金比羅参詣 (江戸後期力)
③紀州藤代峠 (明治24年)
④江ノ島参詣 (明治中期)
⑤江戸時代の江ノ島参詣 (明治中期)
⑥琵琶湖カ (明治)
⑦隅田川と今戸 (明治)
Cグループ=武者や物語を描いたもの
①源頼朝の富士牧刈り (文化11年)
②三国志人物 (文政2年)
③すさのおの尊の大蛇退治 (明治13年)
④藤原秀郷のむかへ退治 (明治15年=堤等国)
⑤神功皇后と竹内宿禰の凱旋 (明治16年)
⑥源義家と阿部貞任 (明治17年)
⑦佐藤忠信と覚範 (不詳=昇亭北寿)
Dグループ=信仰を描いたもの
①八幡神礼拝 (安政2年=堤等国)
②女衆御幣礼拝 (明治22年)
③母子御幣礼拝 (明治17年)
④富士方 (大正4年)
Eグループ=その他
①元帥と捧げ筒 (明治36年)
②小絵馬合わせ額 (7点を合額)
(グループ年代順、作者名の無記は省略した)

「絵馬」は祈願やお礼のため社寺に奉納する絵額のこと、その起源は古代、神の乗り物としての神馬献上にはじまるという。のち生馬が板絵馬に代わり、室町時代には専門絵師が誕生して、しだいに進歩、美術品化した。最盛期は江戸後期の文化、文政ころ、小絵馬が流行し、安産や病氣平癒などの画題が奉納された。現在でも入学試験シーズンに天神社などへの「合格祈願」小絵馬奉納がさかんで、春の風物詩として定着している。

絵馬の大小はおおむね30cm以上と以下でわけられる。飯香岡八幡宮には社殿と宝蔵庫に長辺1m前後の大絵馬32点が展示または収蔵されている。作者は堤派3代等琳をはじめ栄川、等

国ら一門の画家が多く、等琳筆になる「源為朝鬼が島」のあららしい筆力が見えたえがある。堤派は江戸深川を本拠に「絵馬やのぼり、ちようちん屋など、みなこの門人となる」(類考)とされる庶民浮世絵一派で知られる。また八幡宮や五大力船を描いた絵馬は郷土資料としても貴重といえる。

宝蔵庫の常設展示品は普段非公開だが毎年3月15日の春季祭礼に無料公開されるのでこの機会をお見逃しなく、また本会では去年6月に飯香岡社の協力をえて所蔵全絵馬の調査写真撮影を実施、写真の一部を八幡公民館1階ロビー「やわたむかし写真館」コーナーに展示している。こちらもぜひお立ち寄りください。

平成22年度の「八幡史学館」は、4回にわたって八幡地区の郷土史を学習、11月9日最終回は「柳橋神事の道を歩く」、秋晴れの1日伝統神事的一端に触れた。当日の模様を参加者の1人多村勝彦さんのレポートで紹介しよう。

永遠に受け継がれてほしい
「柳橋神事の道」を歩く

多村勝彦

午前中ビデオでの予備知識を蓄え、講師の案内で現地へ。路線バスでおよそ5分、市原坂下バス停へ移動、降り立つと左右に白船城と市原城。いきなり戦国時代が歓迎してくれた。坂下の小さな祠を覗くと市原でも2番目に古いという庚申

塔。しかし「三猿」の顔が無残にも削りとられている。貴重な文化財への心ないいたずらに心が痛む。

坂道を進んで小さな石段を上がると光善寺薬師堂がある。県内最古といわれる応永型石とうろうや飯香岡社の創建神話ともかかわる「麦飯石」がさほど広い境内に佇む。国分寺や尼寺より古い「光善寺廃寺」跡との説明。町民会館を兼ねる本堂で地元の山越国臣先生から伺う。光善寺は「国寺」で国府に関係したこと、飯香岡社と市原とのかわりなど興味深い。普段非公開の薬師堂が開けられ室町時代のお厨子や仏像を拝観した。ついで柳橋神事の道をすすむ。市原八幡宮から台地先端の阿須波神社へ。「万葉歌碑」では九州へと出兵する防人に思いをはせる。阿須波社は旅立ちの神様という。「更級日記」の著者、菅原孝標のむすめもこの社に参拝して京を目指したことだろう。高台から五所、八幡から京葉工業地帯を一望。秋風が心地よい。ここで一応の解散、元氣組はたんぼの真ん中を一直線に走る「条里制遺跡、古代官道」を五所小学↓

訃報*板倉 満さん

当会々員で拓本技術の第一人者であった、郷土史研究家の板倉 満さんが去年12月29日、急性心不全のため逝去されました。行年81才でした。当会石造物グループのリーダー講師として主に八幡地区の石造物調査の拓本技術、解説などでご指導いただきました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。なお、本会では板倉さんの集大成ともいえる「八幡の石造物研究」を編纂中で、年内刊行の予定です。



拓本を取る板倉さん

校まで。飯香岡社大祭の時、市原台地で調整された柳橋がこの道を通って五所に引き継がれ、当日朝八幡宮の神前に奉尊される。6百年引き継がれた巡行の道との説明に感動、ぜひ永遠に受け継がれてほしいものだ。市原、五所、八幡の歴史文化にふれた貴重な体験となった。

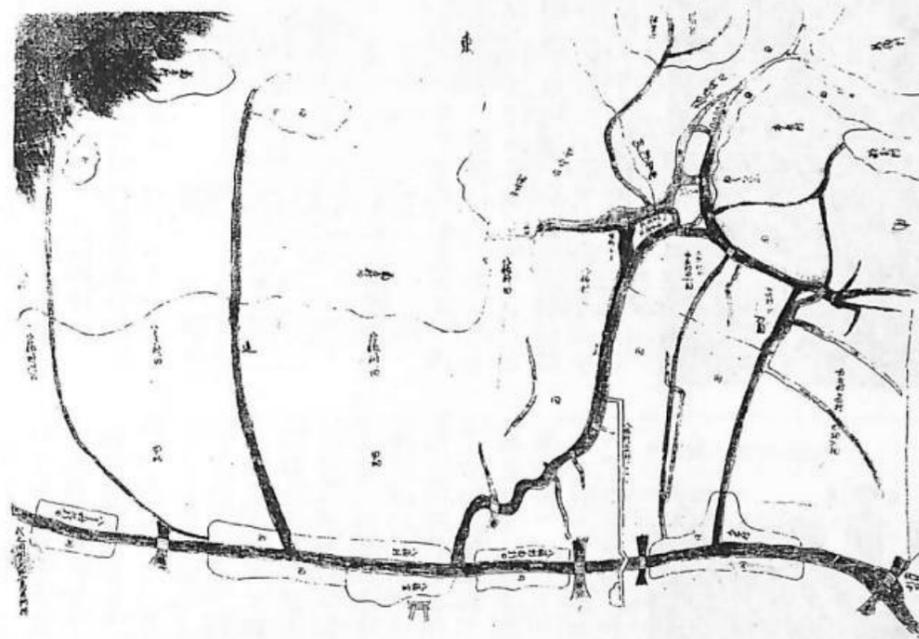


阿須波神社



柳橋の巡行





飯香岡八幡宮文書136

八幡地区の市原村周辺を描いた江戸中期の絵図。能満水留め堰の水争い訴訟、幕府評定所裁許状の写しで、表書きは原告の市原村と五所村が勘定奉行に提出した訴状と被告である八幡村の申し分、検使役人の調査結果を記し、最後に裁許がある。「後鑑のため絵図いま裏書き、双方へ出し置くのあいだ、堅く相守るべきものなり」老中、南北江戸町奉行、勘定奉行が連印している。

あ・と・が・き

4月から市内8つの公民館の運営が指定管理者に移行した。より身近な地域文化の殿堂として発展できるのではないか。新制公民館への期待は大きい。

本会は、①八幡地区の郷土史研究、②八幡名所百選の選定、③八幡公民館主催事業・八幡史学館の運営協力、④その他郷土の歴史文化の発展に資することの4点を事業方針としている。新制八幡公民館を本拠に先人たちの残した歴史文化を守り、育んでいきたい。

100選チーム＝青木くに、朝倉久江、石井 勇、北島勝代、小出惣治、佐倉東雄、高沢 毅、多村勝彦、内藤敏子、山岸弘明、鷺津寛子（あいうえお順）